

平成 29 年度 第 1 回下田市立学校等再編整備審議会

日 時	平成 29 年 4 月 27 日(木) 19:00~20:40		場 所	下田市立中央公民館大会議室	
委 員	氏 名 (役職名)	出欠	氏 名 (役職名)	出欠	
	渡邊 久志 (会長)	○	臼井 さおり (副会長)	○	
	土屋 弘男	×	和泉 哲夫	○	
	相馬 俊雄	○	長友 五郎	○	
	渡邊 角夫	○	伊藤 拓也	○	
	國分 敬治	○	鈴木 翼	○	
	古川 仁	×	渡邊 延江	○	
	佐々木 義孝	○	鈴木 徹弥	○	
	森本 幸平	○			
事務局出席者 職 氏 名	教育長 学校教育課参事 指導主事 主事	佐々木 文夫 山梨 弘樹 土屋 大祐 原 隆史	学校教育課長 学校教育係長 技師	土屋 仁 吉田 康敏 土屋 真一郎	
発言者名	発言内容及び事務局回答				
課 長	1. 開 会 19:00				
教 育 長	<p>2. 教育長挨拶</p> <p>皆様、こんばんは。この度、下田市立学校等再編整備審議会委員をお願いしましたところ、ご快諾をいただきまして、まずもって、心より厚くお礼申し上げます。</p> <p>今回、皆様にお願ひしました再編整備審議会の開催理由でございますが、これまでの経過と併せ、お話しさせていただきたいと思ひます。</p> <p>ご承知の通り、私たち下田市におきましても少子社会を迎え、生徒数は、中学校全体で見ますと、ピーク時の昭和 37 年に 2,220 人いた生徒が、平成元年には 1,271 人、平成 10 年に 851 人、平成 20 年に 638 人、そして現在、平成 29 年 4 月 1 日現在で 449 人となり、5 分の 1 近くまで減少しました。今後、10 年後の平成 39 年には 395 人と更に少なくなる予想がされています。</p> <p>これは他の市町におきましても同様でございますが、近隣では既に学校統合・学校再編等により、これらの問題・課題に対応しております。また、平成 29 年 4 月の静岡新聞では全国 1,432 市区町村のうち 58%、834 の教育委員会が学校統合を検討しているという記事が掲載されていました。</p> <p>私たち教育委員会も、この課題に対する解決に向け、平成 18 年 6 月、下田市立学校等再編整備審議会を設置しまして、「下田市における学校の在り方」について諮</p>				

<p>課 長</p> <p>渡邊角委員</p>	<p>問をさせていただきました。そして、平成 19 年 12 月、「小学校は複式が生じたときに検討する。中学校については生徒数の減少が顕著な稲梓中学校と稲生沢中学校を先行して平成 22 年 4 月に統合する。」という答申をいただきました。</p> <p>この答申を受けまして、以降、再編整備に取り組んできたところでございますが、平成 21 年 5 月、この計画につきましては残念ながら地域の皆様の同意を得られていないと判断し、見送ることを決定しました。</p> <p>見送ってからかれこれ、5 年以上が経過し、児童・生徒数は更に減少し、子どもたちの学びの環境は改善されませんでした。そこで平成 26 年度に新たに学校等再編整備審議会を開催し、諮問・答申を受けました。</p> <p>その答申内容は、「将来的には中学校は 1 つということも、視野に入れて再編を考えていくべきである。その第一段階として、単学級である稲梓中学校と稲生沢中学校を統合して新たな中学校を構築すべきである。今後、近い将来下田東中が単学級になる可能性が生じる。その場合は、下田東中は下田中との統合を推進していく。更に将来的には下田市に中学校は 1 つということも視野に入れて、中学校の再編を考える。」と結んでいます。</p> <p>この答申をもとに、あらゆる角度から、アンケート調査を 2 回、総合教育会議を 6 回、教育委員会を 6 回、市長と語る会を 6 回、保護者説明会を 8 回、再編検討会議を 4 回、政策会議を 2 回、市議会全員協議会を 2 回、それぞれ開催、協議などを行い、貴重なご意見をいただきながら検討してきました。そして平成 29 年 3 月の定例教育委員会におきまして、審議していただく内容を協議し、本日この学校等再編整備審議会を立ち上げることになりました。審議していただく内容につきましては、後ほど諮問させていただきます。また、この後、担当よりこれまでの経過について、詳しく説明させていただきます。</p> <p>最後になりますが、下田市の子どもたちの明るい未来のための教育環境整備に資する有意義な会となりますよう、心よりお願いする次第でございます。よろしくお願ひします。</p> <p><b>3. 委 嘱 状 交 付</b></p> <p><b>4. 委員自己紹介</b></p> <p><b>5. 正副会長選出</b></p> <p>審議会規則第 5 条の規定により、正副会長は委員の互選によりこれを定めるとされています。会長について、どなたにお願いすればよろしいでしょうか。</p> <p>これまでの経過などを熟知している渡邊久志委員が適任だと思うのですが、いかがでしょうか。</p>
-------------------------	---

課 長	<p>ただ今、渡邊角夫委員より、渡邊久志委員を会長にというご発言を頂きましたが、いかがでしょうか。</p> <p>「異議なし。」と発言する者、多数あり。</p>
課 長	<p>それでは、会長につきましては、渡邊久志委員にお願いすることとなりました。渡邊委員につきましては、よろしくお願ひいたします。</p> <p>引き続きまして、副会長についてですが、いかがでしょうか。</p> <p>「事務局に腹案はあるか。」と発言する者あり。</p>
課 長	<p>事務局といたしましては、下田市PTA連絡協議会の会長でもある臼井さおり委員にぜひとも副会長にお願いしたいと考えておりますがいかがでしょうか。</p> <p>「異議なし。」と発言する者、多数あり。</p>
課 長	<p>それでは、副会長につきましては、臼井さおり委員にお願いすることとなりました。臼井委員につきましては、よろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは、会長、副会長には、それぞれ会長席、副会長席にお移りいただきたいと思ひます。</p> <p>ここで正副会長よりそれぞれご挨拶をお願いします。</p> <p>【 正副会長挨拶 】</p>
課 長	<p>6. 諮 問</p> <p>これより先の議事進行については会長にお任せしたいと思ひますが、議事に先立ちまして、下田市教育委員会より、ただ今決定いたしました会長に対し、諮問をさせていただきます。</p> <p>【 佐々木教育長より下教学第 191 号により諮問 】</p>
会 長	<p>7. 議 事</p> <p>(1) これまでの中学校再編に関する経過説明</p> <p>それでは、これより議事進行をさせていただきます。円滑な議事進行にご協力のほどよろしくお願ひいたします。</p> <p>本日の議事の(1)として、「これまでの中学校再編に関する経過説明」となっております。</p>

事務局担当	<p>本件につきまして、事務局より説明をお願いします。</p> <p>【 配付資料の確認とともにパワーポイント作成資料により、経過説明 】</p>
会 長	<p>ただ今、事務局からの説明があり、初めての方は今聞いていただいただけでは、なかなかすぐに理解をしていただくことは難しいかと思いますが、もう少し説明を求めたり、質疑などがあればお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。</p>
相馬委員	<p>スケジュールなど説明していただいたのですが、下田市の市庁舎が平成32年までに建てる、あるいは検討されていると思います。この中学校については、いつ頃までに再編されるのですか。</p>
課 長	<p>今現在、市庁舎については、平成32年度を目標に建設したいということで進めております。中学校につきましては、平成33年度以降に再編するということが庁内において、検討させていただいている状況です。やはり庁舎につきましても莫大な経費が掛かってしまうという部分、中学校再編についても同様であり、なかなか並行して事業を実施することが難しい側面もありますので、33年度以降というところで検討させていただいております。</p>
和泉委員	<p>再編整備委員会への諮問の部分で質問があります。校舎位置についてですが、下田中学校跡地を利用するという事になっておりますが、これは教育委員会で決定した内容なのでしょうか。</p>
教 育 長	<p>先ほどからの説明の中で、色々なアンケートを取らせていただいたり、総合教育会議での協議であったり、あるいは保護者説明会などでも色々な意見を伺わせていただきました。そして最終的には、下田市教育委員会、私と教育委員4名で構成します組織でございますが、今委員から発言された内容につきまして、教育委員会としての方針を示させていただいたところです。</p>
渡邊角委員	<p>建設手法の中で補助制度という記述がございますが、その制度の中身というのは何か教えていただけますか。</p>
課 長	<p>補助につきましては学校施設環境改善交付金という国の補助がございます。国の補助は2分の1になります。学校の整備を行うには、国の制度の中で基準がございます。正直なところ、あまり大きいものではなく、最小限の面積等で算出されるようなもので、市の持ち出しも多くなると想定しております。しかしながらそういった国の補助制度などを最大限活用しながら、市としても最小限の起債、いわゆる借金でございますが、それをいかに少なくしていくかということを考えて進</p>

	<p>めていきたいと考えております。また、補助制度とは直接的には関係ございませんが、下田市は本年4月1日から過疎指定を受けました。指定される基準でございますが、財政力指数が0.5以下、人口減少率が21%以上ということで、この2つの基準を満たしましたので過疎地域として指定されました。過疎地域指定されることによりまして、補助率の嵩上げや有利な起債を借りられるなどの優遇措置を受けることが可能となります。ただし、それら措置を受けるためには計画を策定し、議会の議決等が必要となりますが、全庁的に連携し、当然学校関係につきましてもその計画に盛り込みながら、進めていきたいと考えております。</p>
<p>会 長</p>	<p>その過疎債を使うことによって、具体的にどういった部分で優遇されるのでしょうか。</p>
<p>課 長</p>	<p>いわゆる元利償還金、お金を借りますとその元金と利息を返していくのですが、過疎債というのは、その元金と利息に対しまして、70%の交付税措置があります。ですので、簡単に言いますと市の持ち出し分は3割で済むということになります。通常の起債につきましても交付税措置されるものもございますが、この過疎債はかなり有利なものであると認識をしております。近隣ですと南伊豆町、松崎町、西伊豆町では既に過疎地域指定をされておりまして、そちらからも有利であると伺っております。</p>
<p>会 長</p>	<p>また、その辺につきましても情報が入り次第、教えていただけたらと思いますのでよろしくお願いします。この他に何かご意見等、いかがでしょうか。</p>
<p>和 泉 委 員</p>	<p>通学補助になるかと思うのですが、教育委員会の方向性として、「全額補助または現状の保護者負担以下の必要最低限の負担としたい。」と補助の面が示されていますが、実際、通学するためにはスムーズな通学経路が必要で、非常に混乱する状況が生まれるのではないかと考えられます。資料ではスクールバス8系統の想定なども示されていますが、実際に下田駅を起点とした場合、各地から下田駅に流れ込む生徒が約350人、それを更に下田中までの高台に送り届けるには、既存路線では困難だと思われる。また下田中になるとおそらく通学はバス通学のみだけだと確定されてしまいます。一方、稲生沢中であれば、下田地区の生徒約100人が稲生沢地区へ、稲生沢地区の90人は今のままで、その他各地区から下田駅に来る生徒については、バス利用や電車利用もできるようになり、下田中への手段と比べると混乱は少ないと思います。アンケート調査や事務局で取りまとめた資料を見ると通学時間とバス利用の場合の料金、それと電車利用の料金設定、それぞれありますが、比較しますと金額的な差はあまりありません。下田地区から稲生沢へ通学するのと、稲生沢地区から下田へ通学するのと、また他の地区からも下田へ、稲生沢へ通学するのと。ただ、交通の便からして、登校時間、下校時間、途中で下校するときなどの時</p>

	<p>間、その時間帯のバス路線がない状況です。稲生沢であれば、電車利用もあるし、バス利用も可能です。そういった交通手段を考えてあげることが、通学補助以上に、下田中学校主体とした学校形態にするのか、稲生沢にするのか、どちらにするとしても、保護者アンケートなどからも大切なのではないかと思います。通学の心配、自転車利用もできないのだろうかなど、そういった心配を保護者の方はしているのではないかと思います。そして何よりも、下田駅に一時だけかもしれないけれども350人が集中するということを考えると、路線の見直し、例えば中学校までの直行便、乗換のない直行便ですとか、そういった検討が一番の大切だと思うのですがいかがでしょうか。</p>
課 長	<p>やはり保護者の皆様が心配されているのは、通学の距離であったり、負担の部分であるということをおもって認識しております。現在のところ、具体的な検討というものはありません。例えばスクールバスなどを市が購入しそれを運行していくのか、または公共交通である南伊豆東海バスさんなどの既存路線を活用するのか、下田市におきましては公共交通会議というものがあり、各交通事業者さんも委員になっております。例えば、今後、下田中学校に再編するということが確定した場合には、南伊豆東海バスさんや貸切バス事業者さんもおられますので、そういった方との協議は必要になってくると考えております。具体的な検討というものはありませんが、確かに委員がおっしゃった内容につきましても、必ず考えていかなければならない重要な問題であると認識しております。</p>
長 友 委 員	<p>総合教育会議報告書別冊の51ページには最終バス停は下田中となっており、ということはこの想定は下田駅に寄らずに下田中へ直接行くという想定を示した資料なのですか。</p>
事務局担当	<p>今回、お示ししているものにつきましては、既存バス路線を活用した場合の想定を記載させていただいております。ですので、一旦、下田駅を経由して、下田駅から下田中学校までの路線、実際は本数少ないのですが、既存ダイヤを想定せず、下田中までの距離と時間を示させていただいております。</p>
長 友 委 員	<p>ということは、下田市として、駅を経由して下田中へ行くという路線をバス事業者さんとこれから交渉をしていくという理解でよろしいでしょうか。</p>
事務局担当	<p>先ほども課長からお話をさせていただきましたが、公共交通会議というものを下田市で設置しておりまして、バス会社さんであったり、タクシー会社さんなど交通事業者さんが集まり、既存の公共交通をどういった形で維持していくのかということをおもって置いた会議になります。学校再編についての方向性がある程度定まった段階で、当然協議をさせていただきたいと考えております。例えば、下田駅までの</p>

<p>長友委員</p>	<p>既存バス路線を下田中まで延ばしてくれないかとか、公共交通計画の中にも、下田中までの敷根の道路を活用し、その先の岩下を通して循環型の路線を作るとか、そういった検討を交通会議の中で協議させていただきたいと考えております。</p> <p>現実的な話しですが、一般の方はあまりバスを利用せず、生徒 300 人くらいが今後、実際利用することになります。それを踏まえますとバス会社さんの方に生徒を優先的に考えたバス運行、通学に便利な方法、既存路線バスだがスクールバス的な要素を盛り込んだものを提案していくことも必要なのではないかと、そういった形の検討も進めてもらいたいと思います。</p>
<p>課長</p>	<p>既存バスを活用するのか、市がバスを購入する方法なのか、あるいは貸切バス、往復の運行委託をするのか、色々な選択肢があると思いますので、公共交通会議なども含めまして、どういった方法が良いのか、例えば複合的な方法、既存バス路線と朝夕ダイヤのない地区などは貸切バスの運行委託にするなど、保護者の皆様の不安を解消できるような方策を考えていきたいと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>今協議していただいたように委員の皆様も心配していますし、前回失敗をしている理由としても、通学関係がネックで上手くいかなかった部分が大きいと思いますので、事務局の方でも説明がありました、とにかく保護者の方に対して、納得がいくような方策を練っていつてもらいたいと思います。</p> <p>他にご意見等、いかがでしょうか。無いようであれば、今回、資料がたくさんありますが、委員の皆様におかれましては、ぜひお読みいただき、次回までに頭の中に入れてきていただいて、これまでずっと検討してきた内容など、色々なものが詰まっておりますので、大変だとは思いますが、よろしくお願ひしたいと思います。</p>
<p>課長</p>	<p><b>(2) その他</b></p> <p>次回審議会を平成 29 年 5 月 22 日 (月)、23 日 (火)、29 日 (月)、30 日 (火) のいずれかで、内容については、中学校視察と第 2 回審議会を合わせて実施することで決定。詳細については、決定次第、事務局から委員へ連絡。</p>
<p>会長</p>	<p><b>8. 閉 会 20:40</b></p> <p>それでは、これを持ちまして、第 1 回下田市立学校等再編整備審議会を終了させていただきます。本日は、ありがとうございました。</p>